

関西民放クラブ活動だより

ポートレート撮影会

西野義和（ABC）

関西民放クラブの写真同好会は、現在15名の写真好きが集まって、勉強会や写真展や撮影会を楽しんでいます。メンバーは、コンテストの常連も含めて多くは自然の美しさを切り取る名人達です。

そんな中、人物を撮ってみようと、昨年から希望者を募ってポートレート撮影会を始めました。今年は、コロナ禍の合間をぬって3月19日に、大阪市の長居公園内の植物園で八名の参加を得て行いました。

モデルになってもらったのは、知り合いの現役の女子大生です。笑顔の素敵な、明るく元気でフレンドリーな女性で、年齢差を超えて我々にすぐ馴染んでくれました。今年は春の訪れが早く、桜も咲き始めていて、お天気にも恵まれ、素材には事欠かない撮影会となりました。

参加者は、慣れないなりにレフ板を交代で持ったり、モデルさんの表情を和らげるために優しく語り掛けたり、いっぱいしのポートレート写真家になっていました。



モデルさんを入れての撮影会



撮影会後、参加者がそれぞれ自慢の写真2枚をモデルになってくれた女性に見てもらい、お気に入りの写真3枚を選んでもらいました。幸いにも私の作品も選ばれ嬉しい限りでした。

とはいえ、表情や肌の色、ボケさ加減や背景とのバランス等々、人物を撮る事の難しさを改めて学んだポートレート撮影会でした。

1年4カ月ぶり 天満天神

繁昌亭で落語を楽しむ

高井久雄（KTV）

上方芸能を楽しむ会は今年の1月20日に、約1年ぶりの例会となる国立文楽劇場での恒例「初春・文楽公演」鑑賞会を行った。

折りしもコロナ感染が急拡大し大阪・兵庫・京都に「緊急事態宣言」が発令される中での開催だったが、17名もの会員の方々が参加され、文楽の至芸を堪能いただいた。次の例会として、一昨年の12月以来途絶えている「天満天神繁昌亭」での落語鑑賞の再開を計画し、4月13日の「桂よね吉 繁昌亭大賞受賞記念」公演に決めて、3月15日に案内を送付した。

実に1年4ヶ月ぶりの繁昌亭での例会である。劇場が入場者を最大102名に制限しているため、申込先着20人の参加（プラス世話人3名の計23名）に限ったが、ピットリ20名の方から参加の申し込みをいただいた。

ところが4月になると、いったん収まったかに見えた新型コロナウイルスが、変異株も増えてまたまた猛威を振るい出す！例会中止も考えられたが、繁昌亭の団体予

約システムでは、事前購入したチケットは公演日の2週間前以降はキャンセル不可なので、チケット購入代金51,750円がすべての会の損失になってしまう。

参加を申し込まれた方の何人かに意向を確認したところ、殆どの方が参加の意思を表明されたので、例会を決行することにした。

最終的には、4名の方が参加を辞退され、16名+世話人3名の計19名が当日繁昌亭に集まった。

今回は、桂よね吉さんが第15回繁昌亭大賞を受賞した記念公演で、ロビーには祝いの花が立ち並び、受賞記念口上もあつて華やかな雰囲気的舞台だった。

トリはよね吉さんの「七段目」。芝居好きの若旦那が、私生活も歌舞伎一色に染まり何を言っても歌舞伎のセリフになってしまう、という古典だが、よね吉さんは堂に入った歌舞伎の所作・セリフ回しで、鳴り物も加えて堂々と演じ切り、大賞受賞の実力を遺憾なく発揮してくれた。

コロナ禍の中にもかかわらず、繁昌亭まで足を運んでいただいた会員の皆さんも、きっと満足いただけたのではないだろうか。